

<東北地区納税貯蓄組合連合会会長賞>

税のあり方

須賀川市立小塩江中学校

3年 佐久間 萌

2011年3月11日。

私が住んでいる市をあの大きな地震が襲った。

小学校5年生だった私は、あの状況を受け入れることができなかった。学校の中は、ぐちゃぐちゃ。体育館はもう半壊だった。市街地へ出ると建物が崩壊し、道路が陥没していた。めちゃくちゃだった。

私の心もどんどん荒んでいった。これからどうなってしまうのか、福島県を出なければならぬのか。たくさんのことを考え、悩んだ。たくさん不安をかかえたまま私は、中学生になった。そんなときだった。学校にスクールカウンセラーの先生が来校した。先生に今までの悩みを相談した。すると、

「皆、同じような悩みを抱えている。萌ちゃんだけじゃないよ。」

私は、この言葉を聞いて、自分の中からモヤモヤが晴れた気がした。先生の言葉があってこそ今の自分だと思う。

そんな救世主のような先生は、税金で来てくださっていたということを知った。少し前までは、税金にあまりいいイメージを持っていなかった。けれどこのことをきっかけに税金についての考え方が変わりだした。

震災から2ヶ月も経たないうちに道路や公共施設が復旧をし始めた。これが、税金の力なのかと思い知った。半壊だった小学校の体育館も地震後と見違えるほどになっていた。これもすべて税金のおかげだと思う。

震災から約3年が経った今では、地震があったとは思えないほど復興が進んでいる。

家でよくこんな会話がある。

「あのお店新しくなったんだね。」

「本当。あのときは、あんなに崩れていたのに。」

この会話を聞くと私は、嬉しくなる。崩れていたものが新しくなり新たな時代を築いていくのだと。本当に税金には、感謝してもしきれないくらいである。

しかし、最近では県議会議員などの税金の不法利用がたくさん問題になっている。私達の父や母が一生懸命に働いて稼いだお金が不法に使われるのは、誰も良く思わない。私も働くようになってこのような問題があったらとても腹が立つ。国をよりよくするための税金が国をもっと悪くさせてしまっているように思える。税金の滞納者を厳しく取りしめるように議員の不法利用をもっと厳しい目で見なければならぬと思う。そうしなければ国は、変わらない。

税金は、私達の生活に本当になくてはならない。これからの福島県の復興にもかかせない。生まれてから死ぬまで一生お世話になるものだ。だからこそ、議員の不法利用やむだ使いをきちんと取りしめ、正しく国民に伝える義務があると思う。

これからは、正しく役に立つ税金の使い方をして欲しい。